
平成 28 年

6 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



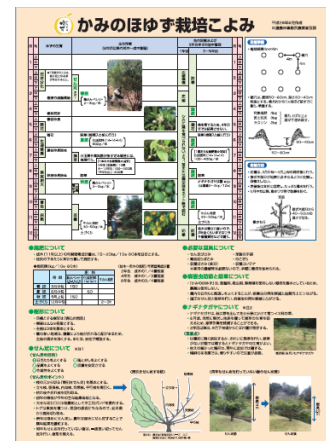
岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

中濃農林■ゆず **かみのほゆず栽培こよみ作成**

農業普及課では、「かみのほゆず栽培こよみ」を作成した。こよみには、ゆず成木の年間管理作業の他、定植方法や幼木の管理などについても示し、これを見れば既にゆずを栽培している人も、これから栽培を始めたい人も安心してゆず栽培ができる内容となっている。

作成したこよみは、関市の上之保地域や武儀地域のゆず農家約200戸を中心に配布する予定である。また、商工会やJA、市役所などの関係機関へも配布し、かみのほゆずの産地拡大に活用することとしている。



【かみのほゆず栽培こよみ】

多様な担い手づくり

岐阜農林■えだまめ **えだまめ塾を開催**

6月8日、22日に、農業普及課とJAぎふが連携して、JAぎふ曾我屋枝豆選果場において、塾生3名を対象にえだまめ塾を開催した。

第1回は、農業普及課が講師となり、えだまめ栽培について座学を行った後、脱莢機や選果場の視察を行い、第2回は、JAぎふえだまめ部会員が講師となり、岐阜市合渡のほ場で、直播き実習を行った。

生産者からは、種を播く穴のあけ方や深さなど、畑と水田では作業方法が異なることなどの説明があり、参加した塾生からは、高品質えだまめを作るためのポイントなど多くの質問が出された。

次回の8月下旬の塾では、収穫、選別作業の実習を行う予定であり、農業普及課では、今後もJAぎふと連携し、塾の円滑な開催と担い手の育成を支援していく予定である。



【えだまめ塾の様子】

東濃農林■多治見市 **アスパラガスの栽培を開始**

多治見市喜多町で新規就農して2年目の新規就農者がアスパラガス栽培を開始した。

現在、父親と同じ露地野菜を中心に農業経営を行っているが、本人には、父親と違う品目で新たに農業経営を拡大したいという意向があり、結果、アスパラガスを導入することとなった。現在6月上旬に播種した苗を、9月に定植するためほ場準備を進めている。

アスパラガスは、比較的栽培しやすく収益も期待でき、かつ直売所向けの品目であるため、現在、管内で栽培を進めている品目である。

上記新規就農者以外にも、栽培開始の動きが始まっており、農業普及課としては、将来的に農業経営の柱となるよう支援を継続していく。



【アスパラガス育苗の様子】

恵那農林■夏秋なす **生産者確保に向けた活動を展開**

東美濃夏秋なす生産協議会では、平成22年度から生産者確保に向けた栽培基礎講座「チャレンジ塾」を開催し、これまでに受講した65名中、15名が翌年から栽培を開始しており、一定の成果を挙げている。

本講座の企画運営を支援している農業普及課では、さらなる受講者の掘り起こしに向け、

昨年度から中津川市、恵那市の協力を得ながら、管内の工業団地等、地元企業の退職予定者等に対して就農を誘導する活動を行っている。

本年度は、5月に中津川市内の54社、6月には恵那市内の14社に対して、就農を紹介するチラシの配布や企業担当者への説明を実施した。

また、恵那市では6月1日に生産者と関係機関による「産地活性化プロジェクト会議」を開催し、産地の現状と課題、改善対策を検討し、市レベルでの産地拡大方策を明らかにした。

近年は、栽培技術改善もあり、収量性については向上しているが、一方で生産者数の減少により産地の生産規模は縮小傾向にあり、農業普及課では技術支援と併せ、様々な生産者確保対策にも取り組んでいく。



【プロジェクト会議】

下呂農林■集落営農 今後の集落営農の在り方のモデルケースに～（一社）馬瀬アグリ総会～

下呂市馬瀬の一般社団法人「馬瀬アグリ」は6月30日、第1回通常総会を開催した。総会では「馬瀬オンリーワン、他に類のない気持ちよく暮らせる夢の地域作り」のスローガンが掲げられ、事業実績・計画及び収支決算・予算などが協議された。

馬瀬アグリは、平成22年に集落営農組合として設立された後、農政の変遷に伴い、昨年10月に一般社団法人として法人化した。いわゆる2階建法人の1階部分を担う地域資源管理法として、住民参加による公益機能を果たし、地域を守り発展させる機能が期待されている。

農業普及課は、2階部分の農事組合法人 馬瀬栄農組合と合わせ、水稻の安定生産をはじめとして活力ある農業・農村の実現に向けて活動支援をしていく。



【「馬瀬オンリーワン」を目指して】

飛騨農林■新規就農者 新規就農者激励会を開催

6月13日、高山市内において、「新規就農者激励会」（指導農業士会、青年農業士会、飛騨農林事務所共催）を開催し、高山市・飛騨市、農業大学校、飛騨高山高校、農協等関係機関から総勢68名が出席し盛大な激励会となった。

当日は23名の新規就農対象者のうち20名が出席し、「研修先の農家に追いつきたい」「新車でBMWを買いたい」「良い作物を栽培し自信を持って農業に従事し地域に貢献できる農家になりたい」など、将来に向かって夢のある明るい意見が多数聞かれた。

農業普及課では、激励会開催までの企画・調整及び当日の運営支援を通じて、新たな担い手の育成を図っている。



【夢を語る新規就農者】

売れるブランドづくり

西濃農林■小麦 「さとのそら」実証試験終了

小麦の「農林61号」は平成29年産から全面的に「さとのそら」に切り替わる。農業普及課ではこれまで先行して切り替えを行った養老町で14か所、その他の市町で12か所の実証ほを設置し、円滑な切り替えのための調査を行ってきた。

他方、平成28年産の小麦は5月の高温で登熟が早まり、農業普及課は当初のカントリーエレベーターの稼働予定を前倒しして稼働させるように支援を行い、「イワイノダイチ」は5月27日から、「農林61号」は6月3日から、「さとのそら」は6月2日から収穫し、全量適期収穫で収穫終了することができた。収量に関しては確定数値は出ていないが、実証ほの坪刈成績や荷受け量等から「さと

のそら」は「イワイノダイチ」と同等の単収を確保できたと思われる。

また、西濃地域には小麦の採種ほが設置されており、農業普及課で栽培期間を通じた品質管理を支援しているが、29年産の「さとのそら」の種子については、「原種種子」「一般種子」とも発芽率95%以上を確保でき、品質審査も合格した。原種種子については美濃種子センターで、一般種子については養老北カントリーエレベーターで保管されているが、荷受け重量は十分あったことから、必要量は確保できたと思われる。

郡上農林 ■ だいこん **目揃え会でGAPを指導**

郡上市高鷲町では6月12日より夏だいこんの出荷が始まった。それに合わせて6月20日に高鷲町上野集会所にて出荷目揃え会が開催された。

目揃え会では、だいこんの現物を示して選別基準をしっかりと守っていくことが確認されると共に農業普及課からGAP（農業生産工程管理）の取組みについて趣旨説明し、組合員へ理解を求めた。

今年は猛暑や台風集中など、だいこん生産にとって厳しい気象条件が懸念される。農業普及課としては病虫害防除を中心とした対策を明示し、「ひるがの」の名に恥じない高品質なだいこん出荷に向けた支援を継続していく。



【目揃え会の様子】

可茂農林 ■ 果樹 **「山之上梨基礎学習会」を開催**

農業普及課は、5月22日に美濃加茂市山之上町の山之上果実農業協同組合の組合員を対象に「山之上梨基礎学習会」を開催支援した。これは、果樹園の後継者等で梨の栽培管理に不安のある方や、これから梨の栽培を始められる方等を中心にした初心者向けの栽培講習会で、当日は10名の参加があった。

講習会では梨の春から夏の管理を中心に説明し、参加者は講師の農業経営課革新支援専門員や普及員に活発に質問され、有意義な講習会となった。



【講師の説明を聞く参加者】

農業経営課 ■ 肉用牛（肥育） **岐阜市肥育牛部会研修会を開催**

6月17日（金）、岐阜市畜産課の呼びかけで、岐阜市管内の和牛肥育農家9名と繁殖農家1名および関係者が集まり、和牛肥育牛の繁殖管理について研修会を開催した。農業経営課地域支援係高山市駐在の農業革新支援専門員が講師として「肥育前期～仕上げ期の牛づくり～高タンパク育成で歩留基準値アップ～」について講演し、その後、参加した農家を中心に質疑応答および意見交換を行った。和牛肥育牛の飼養管理についての勉強会はこれまで行われてこなかったことから参加した農家らは熱心に聞き入っていた。今後は希望する農家を対象に個別指導を行っていく予定である。



【和牛肥育繁殖研修会】

住みよい農村づくり

揖斐農林■3町、JA 揖斐地域農業振興連携会議開催！

揖斐農林事務所農業普及課は、6月2日に管内の3町、JAの関係者による、揖斐地域農業振興連携会議を開催した。この会議では、今年度の普及指導計画の課題や取り組み内容、各機関の農業振興計画、営農指導計画、販売計画等の内容について協議が行われ、今後も揖斐地区の農業振興を強力に推進していこうとの機運が高まった。

今後、農業普及課では関係機関と連携し、普及指導計画の達成に向けて活動を展開していく。



【連携会議の様子】